

日本自動車史の資料的研究 第20報
名古屋における「第10回関西府県聯合共進会」
と自動車（明治43年，1910）

大 須 賀 和 美

1. 前 書 き

「第10回関西府県聯合共進会」は、明治43年3月16日から6月13日までの90日間、愛知県主催で名古屋市において開催され、263万人余の観客があったと記録されている。この共進会は、農業・工業の産品を展示してその振興を計るもので、明治16年の第1回京都から3年おきに各府県持ち回りで、前第9回は明治40年4月三重県津市で2府20県が参加して開催された。

第10回の開催地愛知県は、明治43年4月の「名古屋開府300年記念祭」と重なるため広大な計画を立て、名古屋市の東南に隣接する愛知郡御器所村鶴舞地区に造築中のフランス式「鶴舞公園」の敷地約10万坪（明治42年2月、名古屋市に編入）に100万円を據出して会場を設営、それまで開催費用は各府県の分担であったものを出品費用のみとし関東地方にも参加を呼び掛けたため、東京府及び8県を新たに加え計3府28県と過去最大の共進会となり、国産自動車（後述）が出展される切っ掛けとなった。

会場への交通は、大須門前町から東進して公園正門に至る大池町筋と、新栄町から南進して公園正門に至る老松町筋の道路を拡張・改修して公園線を作り、名古屋電気鉄道(株)により同線に電車を布設（明治43年2月開通）、既設線と連絡して官鉄名古屋・熱田・千種の各停車場から共進会場への観客の便を計ったが、他は人力車に頼るのみであった。

2. 共進会と国産自動車の出展

明治43年（1910）3月といえば、日本において自動車はまだ大衆の目に触れることの少ない、珍しい西洋の乗り物で、その保有台数を当時の各府県統計書で見ると、次のとおりである。

	東京府	京都府	大阪府	兵庫県	他 県
明治42年末	79	2	1	6	0

（注）明治期には内閣統計局による自動車の全国統計はなく、筆者の独自調査による。

しかし、共進会の主催地愛知県に1台の自動車も保有されていなかった当時、会場に次の4台

の自動車が現れたことが地元新聞紙上で確認される。

- (1) 東京の宮田製作所による国産「旭号2人乗4輪小型自動車」の出席
- (2) 大阪の「クラブ洗粉」の宣伝自動車
- (3) インド・パロダ王国の国王一行がアメリカへの旅で訪日、持参の自動車にて京都から東京への途中名古屋泊、共進会参観
- (4) 自動車による世界旅行のアメリカ婦人が、インドから前記パロダ国王と同行

上記4件中、(3)・(4)については本学論叢第21号(1991)中に研究“第17報”として詳細に発表してあるので省略、本報にては(1)・(2)について、当時の地元新聞の記事などを資料に史の見解を述べるものである。

〔記事紹介〕(注)調査は、扶桑・新愛知・名古屋新聞の3紙。

明治43年4月17日、新愛知新聞

「宮田製作所」自動車広告(写真一参照)

明治43年4月29日、扶桑新聞

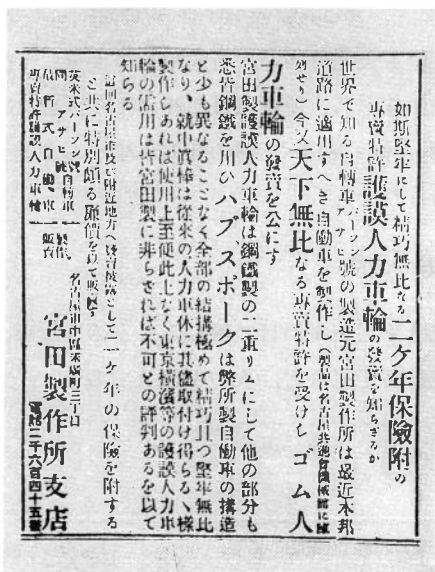
●千円以上の物品(六) ▲機械館

〈……前略……、同じく東京本所区菊川町宮田栄助氏の二人乗自動車が、乃公を見落す勿れと
いつたやうな顔付きで構えている、此自動車君の身の代金は一千五百円だ、……後略……〉

明治43年6月23日、新愛知新聞

●出品審査概評(十六)▽第八十七区車両及附属器具

〈……前略……自動車の出品は僅に一点にして比較審査に由なきも材料外観共に佳良なり然れども機械の構造尚不完全なる点少なからず……後略……〉



(写真一) 新愛知新聞, 明治43年4月17日付から

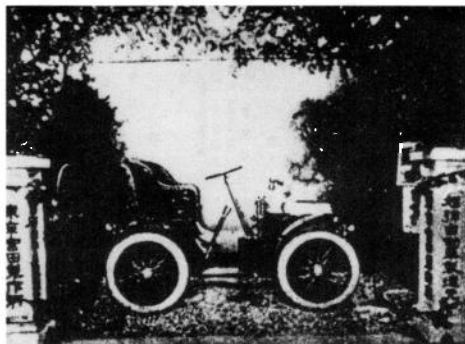


(写真二) 名古屋新聞, 明治43年4月21日付から

3. 国産旭号自動車は，共進会で入賞したか？

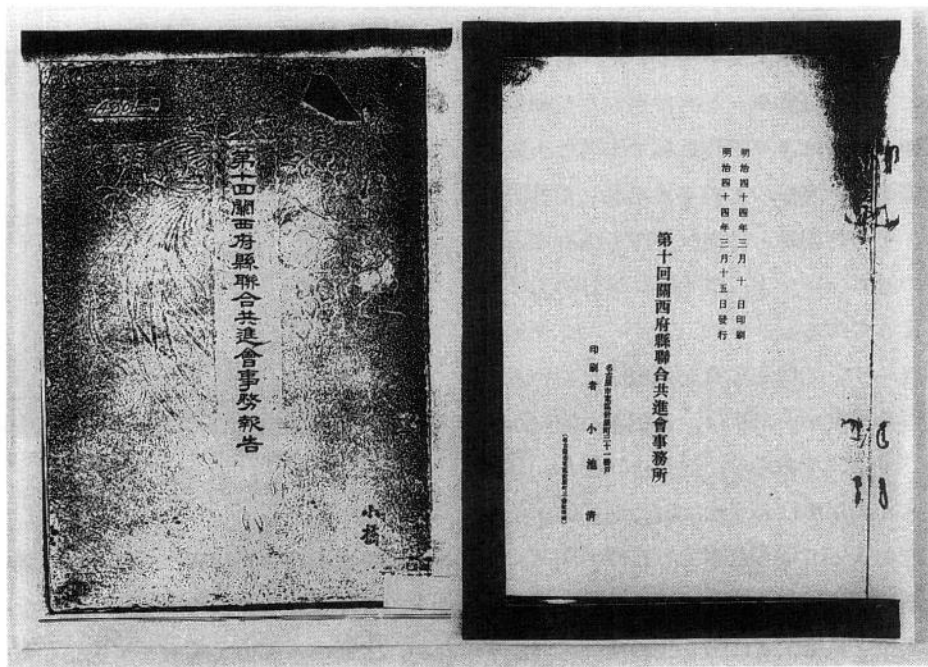
昭和40年11月11日付「自動車工業会」発行の『日本自動車工業史稿(1)』では，第五章宮田製作所の国産車（254ページ）の項で，〈明治四三年三月，名古屋で開催された第一〇回関西府県連合共進会に，宮田製作所の国産「旭号」小型乗用車が出品され，みごと一等の金牌を受領したことはさきに述べた通りである。〉と125ページの同文が繰り返され，以後類書に引用されて俗説となっている。

（写真一3，参照）

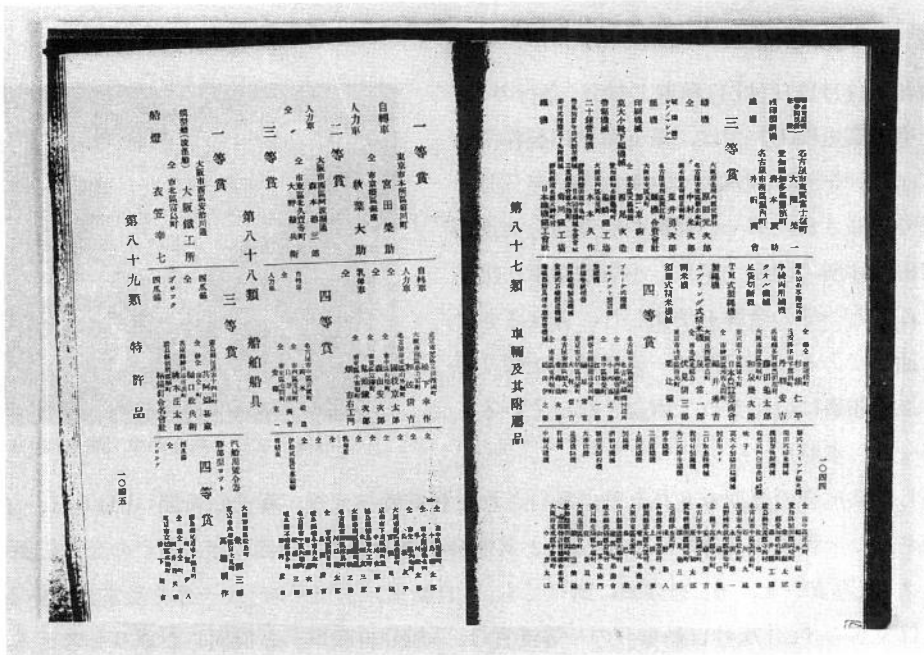


（写真一3）日本自動車工業史稿(1)から

しかし，共進会の会期末6月5日に挙行された褒賞授与式後，新愛知新聞（6月6日，7日付）に発表された一等受賞（金牌）人名462人と共進会事務所発行（明治44年3月）の公式記録中の入賞者リスト（写真一4，5）を詳細に調べても，「自転車，宮田栄助」は一等を受賞しているが「自動車」は見当らず，「旭号自動車」の一等受賞は，「旭号自転車」と混同した誤りと考える。



（写真一4）第十回関西府県聯合共進会事務所報告，表紙と奥付け（名古屋市鶴舞中央図書館蔵）



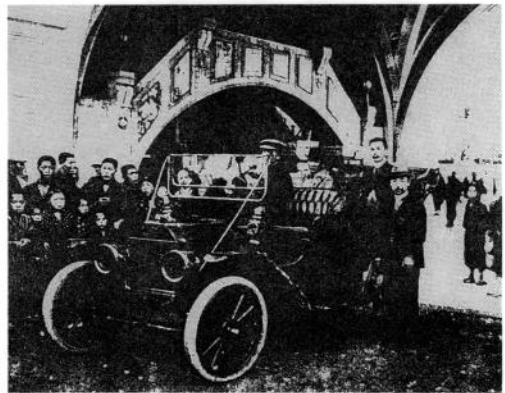
(写真一5) 第十回関西府県聯合共進会事務報告, 入賞者リスト, 車両の部

4. 「クラブ洗粉」の宣伝自動車

前出『日本自動車工業史稿(1)』に、名古屋の共進会に「旭号自動車」と共に現れた自動車として、く他の一台はクラブ化粧品で有名な大阪の中山太陽堂が、宣伝のため参考出品した外国車がある。その外国車とは同社が今も保存する一二三頁の写真フォード、アセチレン灯のものが正しいようである。……(125ページ)、と推定で「写真一6」と同じ写真が掲載されている。

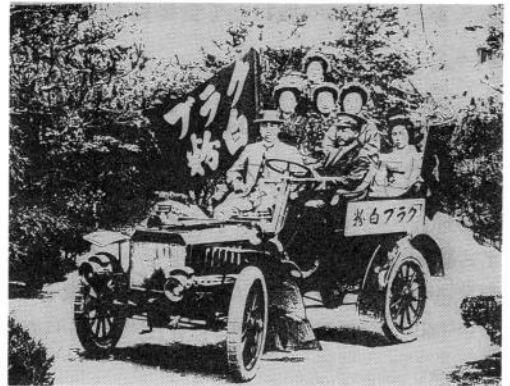
この写真のフォード車は、外観から明らかに有名な“T型”であるが、同型は1908年10月に生産に入り同年中はわずか300台、翌1909年から大量生産に入っていった車で、当時の商業ルートからして明治43年(1910)春に日本に既に渡来しているには早過ぎる感がし、また、名古屋新聞紙上の「写真一2」とは車型が合致しない。

今回本報を執筆するに当りこの疑問を解決するため、大阪の「中山太陽堂」が現在も引続いていると聞き、何か手掛りがないか問い合せてみた。現在は「倶楽部コスメチックス」(大阪市西



(写真一6) 倶楽部コスメチックス80年史から (フォードT型車)

区西本町二丁目6-11)の社名でクラブ化粧品を中心に盛業中で、同社が昭和58年8月に発行された『創業中山太陽堂、クラブコスメチックス80年史』中に関連の自動車の写真(写真-6, 7)があった。しかし、残念ながら同2枚の写真がいつ、どこで撮影されたものかわからず、同史中に「明治43年春、頼母木桂吉氏の周旋でフォードの中古車を買った。」とのみ記されている。



(写真-7) 頼母木桂吉氏から
(フォードB型車?)

同社史中の「写真-7」と名古屋新聞紙上の写真の自動車とはラジエータの型から同型であることが分り、フォードのカタログと見較べて、「B型」(1904~1906)4気筒20馬力でないかと思われ、中古車で購入されたとのことで时期的にも合致する。従って、『日本自動車工業史稿(1)』に共進会に現れたクラブ化粧品のフォード車として紹介された「写真-6」と同じ写真は、背景が共進会のように見えたための誤載で、「写真-2」又は「写真-7」の車が正しい。

なお、中古車をあつ旋した頼母木桂吉は報知新聞社の幹部社員で、明治41年末に大阪の大東自動車解散したとき3台のホワイト号蒸気自動車を同社で買い取り、新聞配送に初めて利用した自動車通として知られている。大東自動車(株)については、本学論叢第14号(1984)に研究第9報として発表してあるので参照されたい。

5. 後 書 き

宮田製作所の旭号自動車は、この共進会で入賞できなかったとはいえ、国産自動車の先駆的事業として注目すべきである。出展された自動車は、東京高等工業学校の根岸政一先生の指導で明治42年秋完成した第1号車であったと伝えられている。

しかし、明治43年(1910)の当時、共進会場には前述したとおり欧米の実用化した自動車数台が走り回り、当然入賞審査員各位の目にもとまっていることとて、国産の小さな試作自動車が見劣りしたのはやむを得ないことである。

資料の乏しい明治期の自動車については、一度文献に発表されると以後類書にそのまま引用され定説化していくため、誤りの確認されたものから早い時期に訂正を加え、後輩たちに正しい日本自動車史を伝えたいものである。

共進会当時の新聞紙上では、賓客用に東京からゴム輪の人力車が初めて名古屋に導入され、以後ガラガラ走る鉄輪が急速に姿を消していったと述べており、市内電車の増設、道路の拡張・整備と、大きなイベントがその地元発展の切っ掛けとなる点は今も変わらない。

共進会場となった鶴舞公園には、噴水塔、奏楽堂、胡蝶ヶ池、竜ヶ池等が当時の姿のまま現存

しており、筆者の地元とて会場見取図や写真と合せ見るとき、85年前の共進会の盛大さがしのばれる。

参 考 文 献

服部鉦太郎著『明治の名古屋』昭和43年6月泰文堂（名古屋）発行

扶桑新聞マイクロフィルム，名古屋市鶴舞中央図書館蔵

名古屋新聞マイクロフィルム，同上

新愛知新聞マイクロフィルム，愛知県図書館蔵

Illustrated History of Ford, 1903-1970, By George H. Dammann, Crestline Publishing, Glen Ellyn, Illinois